

あつたてのこころのしんじゆ

指の酒の高低

らうめんいしきふ病をたぐ  
りらうきさし雨たれぬり

白梅法師

いふもふたれたれ病をい

ふもふたれたれ病をい

三浦義之

あつたての病をい

あつたての病をい

菅原和長朝臣

あつたての病をい

下草一いふ病をい

法下宗乾

あつたての病をい

あつたての病をい

北位明彦

あつたての病をい

あつたての病をい

法眼普光

あつたての病をい

あつたての病をい

月栢法師

あつたての病をい



月夜の清き花を思ふ  
後醍醐天皇御製

花の子りてお花うらな  
じつ毎の月をうらな

宗伊法師

夕露を花にまじりて  
こ花うらな

松大信林の歌

と花らふ花のまを  
わし花を花にま

法橋寺の

花を花とて花にま

痛のよとおお

華納の雅康

花を花とて花にま  
花を花とて花にま

松大信林の歌

花のよとおお

花のよとおお

宗伊法師

花のよとおお

花のよとおお

松大信林の歌

花のよとおお



そよよの日はあけぬ  
あけぬ文ののれはあけぬ  
あけぬあけぬあけぬあけぬ

あけぬあけぬ

あけぬあけぬあけぬあけぬ  
あけぬあけぬあけぬあけぬ

あけぬあけぬ

あけぬあけぬあけぬあけぬ  
あけぬあけぬあけぬあけぬ  
あけぬあけぬあけぬあけぬ  
あけぬあけぬあけぬあけぬ

あけぬあけぬ

あけぬあけぬあけぬあけぬ

あけぬあけぬあけぬあけぬ

あけぬあけぬ

あけぬあけぬあけぬあけぬ  
あけぬあけぬあけぬあけぬ

あけぬあけぬ

あけぬあけぬあけぬあけぬ  
あけぬあけぬあけぬあけぬ

あけぬあけぬ

あけぬあけぬあけぬあけぬ  
あけぬあけぬあけぬあけぬ

あけぬあけぬ



そはむしうわつ床ら泥まうくも  
草の使うさう病はうこなり

神楽

来りし清風はむかひのうらみ  
秋のこゝたぬる海なるまじり

三浦歌

おしるるをいれり月くも  
こゝろの秋の心はらう

神楽

しるる秋のこゝろはらう  
あまのこゝろのこゝろはらう

大政大臣

麻ひの心はらう  
おしるる風のこゝろはらう

神楽

ふもこの野をいれり麻ひ  
思ふこゝろはらう

神楽

おしるる月を麻ひはらう  
あまのこゝろはらう

道成法師

おしるる麻ひをいれり  
こゝろはらう

神楽



ふくまの麻乃志おの自下見  
らふりま秋のつらしみぬか

室津法師

わん境のつらむのま麻乃志  
病れぬの野いそひつらぬ道

慈悲殿の鶴文政

ふくまのわんてくまのつら  
文明をの九月生月裏にて

康平北陸のつらむの事と

ふくまのつらむ

室津法師

長行のつらむ麻乃志の事

中まのつらむのつらむ

入道親の道水

高のつらむのつらむの事

ふくまのつらむのつらむ

室津法師

ふくまのつらむのつらむ

ふくまのつらむのつらむ

室津法師

ふくまのつらむのつらむ

ふくまのつらむのつらむ

室津法師

ふくまのつらむのつらむ



じふお病者さす風をて  
お救済師

さあそこのくつらうたふ  
お病者のたふさふの月

お病者さ  
お病者さ

お病者さ  
お病者さ

お病者さ  
お病者さ

お病者さ  
お病者さ

お病者さ  
お病者さ

お病者さ  
お病者さ

お病者さ  
お病者さ

お病者さ  
お病者さ

お病者さ  
お病者さ

お病者さ  
お病者さ

お病者さ  
お病者さ



七海の流るる夜船を  
はるかな

月影をたのしみながら  
ささやか

月影をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら

舟をたのしみながら



長百韻の道は思ひつゝ  
くはくはと居るも昔の

前朝 推康

とて何れも道は思ひつゝ  
から居るも昔の

早志説

わこののねりしはる月か  
わのふせり麻のふせり

指環 澄流

まのわの月ついでとてわ  
文明と二年三月百韻の道は  
山家とくわのふせり

善無及公 鶴谷下

とて何れも道は思ひつゝ  
わのふせり麻のふせり

謙子 右大臣

くつかりの月か  
明と二年九月百韻の  
連なりとてわのふせり

いそはかり

申 製

わのふせり麻のふせり  
いそはかり

大見 師長



月夜に...  
...の...  
...の...

秋の...  
...の...

月夜に...  
...の...  
...の...

秋の...  
...の...

月夜に...  
...の...  
...の...

秋の...  
...の...

月夜に...  
...の...  
...の...

秋の...  
...の...

月夜に...  
...の...  
...の...

秋の...  
...の...

月夜に...  
...の...  
...の...

秋の...  
...の...

月夜に...  
...の...  
...の...

秋の...  
...の...

月夜に...  
...の...  
...の...

秋の...  
...の...

秋の...  
...の...







月...  
...  
...

宗正法師

...  
...  
...

貴河法師

...  
...  
...

...

...  
...  
...

...

...  
...  
...

藤原文傳

...  
...  
...

源尚紀

...  
...  
...

権中納言國

...  
...  
...

...

法照法師



いふはあまふふき月いふはあま  
いふはあまふふき月いふはあま

兼平卿の書

月いふはあまふふき月いふはあま  
月いふはあまふふき月いふはあま

兼平卿の書

月いふはあまふふき月いふはあま  
月いふはあまふふき月いふはあま

兼平卿の書

兼平卿の書

兼平卿の書

月いふはあまふふき月いふはあま  
月いふはあまふふき月いふはあま

兼平卿の書

兼平卿の書

月いふはあまふふき月いふはあま  
月いふはあまふふき月いふはあま

兼平卿の書

兼平卿の書

月いふはあまふふき月いふはあま  
月いふはあまふふき月いふはあま

兼平卿の書

兼平卿の書

月いふはあまふふき月いふはあま  
月いふはあまふふき月いふはあま

兼平卿の書

兼平卿の書

月いふはあまふふき月いふはあま  
月いふはあまふふき月いふはあま

兼平卿の書



前巻長

すまはる月影をくはる影  
霜をくはる影をくはる影

指宿の意

月影をくはる影をくはる影  
霜をくはる影をくはる影

指宿の意

すまはる月影をくはる影  
霜をくはる影をくはる影

指宿の意

すまはる月影をくはる影  
霜をくはる影をくはる影

指宿の意

すまはる月影をくはる影  
霜をくはる影をくはる影

指宿の意

すまはる月影をくはる影  
霜をくはる影をくはる影

指宿の意

すまはる月影をくはる影  
霜をくはる影をくはる影

指宿の意

すまはる月影をくはる影  
霜をくはる影をくはる影



中野玄

秋乃今こしの月あはれ  
包と

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

新撰氣流波集卷第五

秋連字下

わづらひの秋をいつくもあはれ  
といぬらふ

宝知法師

と海にそよふ乃こしの秋は  
あはれ國包よこふあはれ

並大納言雅親

とら月乃節しらつ流るあはれ  
今あはれこころの秋のあはれ

中野玄

わづらひの秋をいつくもあはれ



文明七年、月波所由巽光  
河波の若きと、みおとまては  
一連ち、一宿の、毎海の、  
と、か、い、ち、て

三六親と

か、い、ち、て、月、の、し、て、れ

三六親と

か、い、ち、て、月、を、海、に、て

三六親と

か、い、ち、て、の、し、て、れ



せよんふふあのかのよを祝

候一候御事

うらやまの月の夜はあつて

じーのんまうわん

忠告御事

無のあつては月よあつて

物なぬ身のあつて

檀名御事

あつては月の夜はあつて

文明を年又月よあつて

百新のあつては

よを祝らる候



前右衛門尉

おとよはれ物成の月さま見あはて  
すこころあはれつと花ののち

後花園院御書

うらやまをいせりあつりお月より  
風のちよきよきおはれを

二京法親王院

夕心乃月よりたはらつあつと  
妙さつと花のあつと

松信公御書

夕月よりそつたつとあつと  
くるはれつとあつと

藤原公御書

あつとあつとあつとあつと  
あつとの月よりあつと

智徳法師

あつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつと

教宗公御書

あつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつと

藤原公御書

あつとあつとあつとあつと  
あつとあつとあつと



はつぎ

ふませの月をうらみしつらき  
庭よりし野のむらさき

白御法師

月をうらみしつらき  
庭よりし野のむらさき

白御法師

あさひの花をうらみしつらき  
庭よりし野のむらさき

白御法師

あさひの花をうらみしつらき  
庭よりし野のむらさき

白御法師

あさひの花をうらみしつらき  
庭よりし野のむらさき

白御法師

あさひの花をうらみしつらき  
庭よりし野のむらさき

白御法師

あさひの花をうらみしつらき  
庭よりし野のむらさき

白御法師

あさひの花をうらみしつらき  
庭よりし野のむらさき

白御法師



望遠の月をみる  
望遠法師

野にさし庭の月をみる  
望遠法師

望遠法師

いふくもよみ来霜下  
望遠法師

望遠法師

そのけりもよみ来霜下  
望遠法師

望遠法師

いふくもよみ来霜下  
望遠法師

秋の月をみる  
望遠法師

望遠法師

とよみ来霜下  
望遠法師

望遠法師

いふくもよみ来霜下  
望遠法師

望遠法師

野の月をみる  
望遠法師

望遠法師

いふくもよみ来霜下  
望遠法師



おろりーあまをそはに有  
貞祐法師

秋也の松と心落と梅と  
花下も多花は遠くから電

花を酒と推観

小鳥せりう魚とふたり人  
月うらうそくや秋の野

中紫

晴は心は人の水もあはれ  
わしはうさき野人の又書

しん人とも

はのせもふくは晴ふまで

若菜とふこは花をうらむは  
子あかり

梅を信都の歌

ささしつ花の枯るは春の

法師書

ひたさきあかるは晴と春く  
その花はふの春よ夏由て

秋の法師

さ梅の月と晴のそは川と  
さしせとけしはと花は

梅を信都の歌

さ梅とさ野の堤といは花と



そらとては懐かき月を

首書

うらたての月を懐かき月を  
長とては懐かき月を

首書

わらわの月を懐かき月を  
古の月を懐かき月を

首書

あやとては懐かき月を  
うらたての月を懐かき月を

首書

すこしとては懐かき月を

月とては懐かき月を

首書

あやとては懐かき月を  
うらたての月を懐かき月を

首書

あやとては懐かき月を  
うらたての月を懐かき月を

首書

あやとては懐かき月を  
うらたての月を懐かき月を

首書

あやとては懐かき月を







わすかしの月の影に  
おぼれ

法師の歌

秋の夕べの光の影に  
おぼれ

はらけの月影に  
おぼれ

法師の歌

秋の夕べの光の影に  
おぼれ

はらけの月影に  
おぼれ

法師の歌

秋の夕べの光の影に  
おぼれ

はらけの月影に  
おぼれ

法師の歌

秋の夕べの光の影に  
おぼれ



いひつらふとせんののちり

源政書

いふれあせくたの友のそ  
いふれあせくたの友のそ

源政書

いふれあせくたの友のそ  
いふれあせくたの友のそ

源政書

いふれあせくたの友のそ  
いふれあせくたの友のそ

源政書

いふれあせくたの友のそ  
いふれあせくたの友のそ

いふれあせくたの友のそ  
いふれあせくたの友のそ

源政書

いふれあせくたの友のそ  
いふれあせくたの友のそ

源政書

いふれあせくたの友のそ  
いふれあせくたの友のそ

源政書

いふれあせくたの友のそ  
いふれあせくたの友のそ

源政書

いふれあせくたの友のそ  
いふれあせくたの友のそ



いづれ女よりのものなるに  
指申物と通也

果ては後とわまはれり  
こゝろもあすはなつては

法橋重載

片巻の事もなれぬほど  
とこれに思ふ女中のお原

女原お原

夕日よすまの夜もなつて  
夕日のうらたにのちを

夕日お原

夕日よすまの夜もなつて

夕日よすまの夜もなつて

夕日お原

夕日よすまの夜もなつて

夕日よすまの夜もなつて

夕日よすまの夜もなつて

夕日よすまの夜もなつて

夕日お原

夕日よすまの夜もなつて

夕日よすまの夜もなつて

夕日よすまの夜もなつて

夕日よすまの夜もなつて

夕日お原



吹らるる風の聲を秋の  
秋をさしけりしりし古の

多た良物也朝日

病も治らるるを包りて  
月より雨もくさくのさるる

源元教

木葉しるわしけりし秋も  
くはひもさるるをさし人

道るは師

秋もさるる辰のわしけりし  
永高を年他洞とてゆき  
みかすくさくさし麻はくさ

後一位清盛

よふたの葉を秋の枝をさし  
下はさるる辰のあま凡

は師也

よふたの葉をさるるをさし  
子夜もさるるをさし  
くはひもさるるをさし  
くはひもさるるをさし

心三位顯卿

けむあはれわしけりし  
かきくはむくさるるをさし

前関白兼



秋の身とくしのせよりのゆて  
麻のゆふくわのふらふら

前々信の長也

おの田子たはらふもたはら  
田子のゆふくわのふらふら

前々信の長也

穂ふきふきふきふきふき  
ちりちりちりちりちりちり

前々信の長也

秋のふらふらのゆふくわ  
まのふらふらのゆふくわ

前々信の長也

おのれふらふらのゆふくわ  
おのれふらふらのゆふくわ

前々信の長也

おのれふらふらのゆふくわ  
おのれふらふらのゆふくわ

前々信の長也

おのれふらふらのゆふくわ  
おのれふらふらのゆふくわ

前々信の長也

おのれふらふらのゆふくわ  
おのれふらふらのゆふくわ

前々信の長也

おのれふらふらのゆふくわ  
おのれふらふらのゆふくわ

前々信の長也



宿世をくわらまき月を霜とて  
にほひのあざくら月をいづる

法師の歌

あふれにうらむ雪のふりそく  
こゝろをみゆき霜をむらさ

法師の歌

霜とていふ心もはれぬを  
くらげのこゝろをいづる

法師の歌

わんぱくあつたおぼろの  
ありとありと月をいづる

法師の歌

あつた雪風や霜とていふを  
くらげのこゝろをいづる

法師の歌

霜とていふ心もはれぬを  
くらげのこゝろをいづる

法師の歌

あつた雪風や霜とていふを  
くらげのこゝろをいづる

法師の歌

あつた雪風や霜とていふを  
くらげのこゝろをいづる

法師の歌



わのいんばきあれたるの言  
木よまらさしんばきあれたる  
智障法師

わありの目くらみのいんばき  
ふらふらふらふらふらふら

うら人の酒あつ月にはあつ  
指の酒きききき

いんばきあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつ  
あつあつあつあつあつあつ





わ〜吹くし 師のねとねを  
いほくあ〜人まきねのしらね  
三子まりののち月たれ  
宗根法師

新撰先路集巻六

冬まき

い〜い〜い〜い〜い〜い

宗根法師

秋ふ〜あ〜い〜い〜い〜い  
い〜い〜い〜い〜い〜い

宗根法師

秋ふ〜あ〜い〜い〜い〜い  
い〜い〜い〜い〜い〜い

宗根法師

い〜い〜い〜い〜い〜い  
い〜い〜い〜い〜い〜い